

# Newsletter from KUIS Research Institutes

vol.10  
2026.3.15



神田外語大学 附属研究所 —— 言語教育研究所 / 日本研究所 /  
グローバル・コミュニケーション研究所 / 学習者オートノミー教育研究所

【GCI 運営委員】高橋 麻奈 先生 新刊紹介

## 『Law and Justice in Small Island Developing States: Lessons from Niue – Tutonuhia he tagata Niue』

著者：Mana Takahashi, Kahealani Sinahemana Hekau

出版社：Routledge / 発売日：2025 年 11 月 14 日 / ISBN：9781032956015

### ■ Ko e ha e Niue? 一なぜ「ニウエ」？

「ニウエ (Niue)」は、1974 年よりニュージーランドと自由連合関係にある自治国家です。人口約 1700 人、面積約 260 平方キロメートルで、ポリネシアに浮かぶ珊瑚礁でできた孤島であることから、「Rock of Polynesia (ポリネシアの岩)」と呼ばれます。私がニウエと出会ったのは、2016 年に Pacific Islands Political Studies Association (PIPSA) 主催の国際会議に参加したことがきっかけです。国際会議の開催地がニウエだったため、未知なる島に行くことになり、そこで「なんだ、ここ！」と衝撃を受けました。「人口 1700 人の小さな国家」の成り立ち、人々の暮らしや価値観、何よりも人々が何を大切に・何を「正義」であると考えているのかを知ることが、想像を超えておもしろかったのです。その時から、「いつかニウエの研究をやってみよう」と思うようになりしました。本書の共著者である、Kahealani Sinahemana Hekau 氏は、現在ニウエの弁護士兼国会議員ですが、彼女とはこの 2016 年の国際会議の合間に、ふらっと見に行った村のお祭りで出会い、友達になりました。

### ■ I loto he tohi nai 一本の内容について教えてください。

本書は、小島嶼開発途上国 (Small Island Developing States: SIDS) における法制度、人権、司法アクセス、ガバナンスに関する現状と課題について、「ニウエ」をケースとして分析した研究書です。ニウエは SIDS の中でも、これまで学術的議論が限られていた国家でもあるため、ニウエ



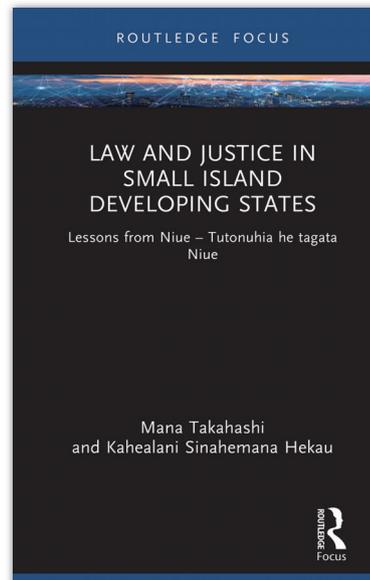
▲ 本学 GLA 学部准教授 高橋麻奈先生 (左)。共著者の Hekau 氏と

の法制度だけではなく、社会や文化について知ることができる一冊でもあります。

本書では、Hekau 氏がニウエの社会や法制度、法多元主義のあり



出版社ページ



方、伝統や慣習などについて体系的にまとめ、紹介しています。また筆者は、開発法学およびグローバル・ガバナンスの観点から、小島嶼国における法制度の特徴や人権保障のあり方、また必要とされる法整備支援とグローバル社会の責任について考察しています。本書の一部は、神田外語大学グローバル・コミュニケーション研究所における共同研究プロジェクト「学際的なアプローチによるSDGs 研究」(2023-2025 年)にて、筆者が担当した成果を基に加筆修正したものです。また本書は、KDDI 財団研究助成事業 (2024-2027 年) の助成を得ています。

### ■ Ko e aoga he tohi nai 一この本にはどのような意義がありますか？

本書のタイトルには、副題として「Tutonuhia he tagata Niue」(ニウエ語で、「ニウエの人々の権利と利益」の意味)を付しています。ここには著者2人の、ニウエの人々と社会、さらに広く小島嶼国家の人権を保障する法と制度への敬意がこめられています。本書は、ケースとしてニウエを扱っていますが、広くグローバル社会の中での SIDS の位置づけ、また SIDS が直面する法制度、人権、司法アクセス、ガバナンスに関する現代的課題について、体系的に明らかにすることを目的としています。ぜひ、SIDS における法のあり方に関心をもつ研究者、国際協力・開発援助に携わる実務者、太平洋地域研究の専門家、さらにはグローバル・ガバナンスや人権政策などに興味のある方に手に取っていただきたいです。また、日本はニウエと外交関係を結んでいます、知名度が低いです。本書が、多くの人がニウエについて知るきっかけになってほしいとも願っています。

New brand color  
新しいロゴが  
できました!



▲RILAE トップ

イベント情報

3/22  
(日)

Learning Advisor Education  
Program: 6th Graduation  
Symposium (online)



6/18  
(木)

16th LAB session (Online)  
Theme: Getting Started with  
Self-Determination Theory (SDT) in  
Language Education



アドバイジングコース

■ Advising in Language Learning 1:  
Getting Started

Next course: Live online classes  
- April 19 and 26, and May 10, 2026  
[Registration closes April 1]  
(KUIS staff discount available)



■ Introduction to Advising in  
Language Learning

On-demand course  
The beta version is free for  
KUIS staff.



More details and registration >>>

新しい出版物

■ Relay Journal, 8(2)



Editors:  
Dominique Vola  
Ambinintsoa and  
Emily A. Marzin

■ Studies in Self-Access  
Learning Journal, (SiSAL)

Editors: Jo Mynard and  
Dominique Vola Ambinintsoa,  
and Eduardo Castro  
2025: 16(4) General Issue, 2026: 17(1) General Issue.



【日本研究所】

シンポジウム  
「西周と幕末洋学の転換」を開催

11月5日、シン  
ポジウム「西周と  
幕末洋学の転換」  
を開催しました。  
図書館主催の展  
示会も同時開催  
(11/5～14)し、  
多くの皆様にご参  
加いただきました。

▼企画展ポスター



「開催報告」は、2026年3月刊行の『日本研究所紀要 第18号』に掲載予定です。



▲鼎談の様子。右から松田清先生、町田明広先生、上野太祐先生

第4回 神田佐野文庫常設展示 監修：松田清先生（日本研客員教授）

「西周、英学の開拓者」を開催中 (2025.9.19～2026.7.31)

明治時代の啓蒙思想家・哲学者として名高い西周(にし・あまね、1829～1897)は、文久2年(1862)オランダに留学。慶応元年(1865)帰国後、徳川慶喜側近、沼津兵学校初代校長を経て、新政府において軍人勅諭起草など軍政整備に務めました。



▼展示風景(3号館1階展示スペース)



▲伊吉利文典 手塚律蔵・西周助閔 津田三五郎・牧助右衛門校正 又新堂刊 安政6年(1859)頃

本展示では、オランダ留学以前、西周が安政3年(1856)に設置された幕府の洋学研究機関「蕃書調所」において、英学の開拓者として果たした大きな役割に注目し、神田佐野文庫所蔵の貴重資料9点の複製を通して、蘭学から英学への転換期における洋学の諸相を考察します。

展示の複製資料

- 1 簡約英文法 ヴェルガー二原著 蘭語版第2版 アムステルダム 安政3年(1856)12月
- 2 英吉利文典 上 ヴェルガー二原著 和刻本 宇田川氏蔵梓 安政4年(1857)
- 3 伊吉利文典 手塚律蔵・西周助閔 津田三五郎・牧助右衛門校正 又新堂刊 安政6年(1859)頃
- 4 The Elementary Catechisms. English Grammar. 1850. 蕃書調所 復刻版 文久元年(1861)頃  
付属資料：帙題箋・挿入付箋「木の葉文典」会津八一筆 昭和21年(1946)3月
- 5 和英商賈対話集 初編 著者不明 長崎 塩田幸八刊 安政6年(1859)12月
- 6 蘭英日買物会話集 オランダ領インド政府日本語通訳 J.J. ホフマン編刊  
ハーグ・ロンドン 1861年
- 7 大学 和字旁訓 J.ホフマン博士編 津田真一郎・西周助校閔 ライデン 1864年
- 8 グリフィス著 新日本初等英語教本 サンフランシスコ 1872年
- 9 グリフィス著 絵入新日本初等英語教本 サンフランシスコ 1872年



▲プレスリリース